

令和4年度（第59回）富山短期大学卒業式 学長式辞

昭和38年4月、富山市願海寺・このキャンパスに富山女子短期大学第1期生117名が入学しました。それから丸60年後の今日、311名の皆さんが59回目の卒業生として旅立ちの日を迎えました。そして3年ぶりにご家族の皆様にもご出席いただき、みんなの記憶に残る晴れの卒業式となりました。卒業生の皆さん、ご家族の皆様、本当におめでとうございます。心からお祝いと感謝を申し上げます。

皆さんはコロナ禍であっても、仲間とつながり、共に学び、共に支え合って、専門的知識と技術を身に着け、人間的にも成長を遂げてきました。皆さんには、食と栄養、保育・幼児教育、情報とビジネス、福祉・介護など、地域の健康と生活、産業の発展、そして真の幸せ **well-being** を担う大切な存在として、大きな期待が寄せられています。皆さんには、激動・混迷する世界と日本にあって、新しい時代・新しい社会の主人公として、失敗を恐れない果敢なチャレンジを期待します。

「自分にチャレンジ！あしたにチャレンジ！」これは、2000年の障害者国体「きらりんピック富山」のコピーです。短大でのこの2年間は、「非日常」**abnormal** な日々への挑戦でした。3年ぶりの対面大学祭や交流行事、サークル活動など、皆さんは学生会を中心に、「新しい日常」**new normal** な学園生活を創り上げてきました。みんなの力を合わせた取組みは、新しい活動と学びにつながりました。富山型レシピコンテストや栄養士実力認定試験、学生アイディアコンテストや古本市、子どもの権利条例や子育て支援活動、介護川柳や呉羽地区フィールドワーク、ポプラプロジェクトなど、数多くの画期的な成果を生み出してきました。

開学60周年・富山短期大学の歩みも、チャレンジの連続でした。高度成長から今日のデジタル化時代まで、学び方や働き方、生き方や価値観も大きく変化してきました。平成の時代には、「管理栄養士の資格が取れても就職はあるのか？」と懸念されながら、北陸で初の専攻科食物栄養専攻、「国際学園でホントに教員養成ができるのか？」と問われながら、短大の発展形として立上げた子ども育成学部、「女子学生に年寄りの世話をさせるのか？」と非難されながら、日本海側で初の福祉学科。どれも古い観念にひるむことなく、新しい学びの場の創造をめざす果敢なチャレンジでした。

経済学者のシュンペーターは、イノベーションによる「創造的破壊」は持続的な経済発展の原動力であるとしています。いままでの伝統も革新によって更新され、新たな伝統が創造されていきます。人間の細胞も、毎日少しずつ入れ替わっています。私たちは生まれつき、自分を革新していく DNA を持ち、毎日新しい自分を創造する営みを続けています。誰もが持っているチャレンジ精神、新しい自分を創り、新しい環境を創る可能性がそこにあります。

もう一度繰り返します。「自分にチャレンジ！あしたにチャレンジ！」。生まれた時からスマートフォンやインターネットが当たり前のように存在し、利用している Z 世代の皆さんこそ、新しい自分、新しい時代を創造する主人公です。就職する皆さんには、家庭や地域、職場や社会から信頼される誠実な職業人となれるよう、さらに自分を磨き、高める努力を続けて下さい。また四年制大学に編入学する皆さん、専攻科を修了した皆さんには、より幅広い視野で学びを深め、より高い目標をめざして勉学に励まれるよう期待しています。富山短期大学は、皆さんのチャレンジを温かく見守り、応援し続けていきます。

結びに、今日から皆さんは、60年の伝統と実績を持つ富山短期大学の誇り高い卒業生 2万 3469 名の同窓会あやな会のメンバーです。校歌の一節「清らかなる知性、誠あるところ」は、富山国際学園共通の DNA であり、私たちの生きる指針・心の支えでもあります。

皆さんの人生が、健やかで幸せな人生でありますようお祈りして、贈る言葉と致します。

令和 5 年 3 月 16 日

富山短期大学長 宮田伸朗